

〔南砺〕 「ドジョウのかば焼き」が名物の南砺市福光地域の住民有志が同市立野原西（福光）の休耕田に造った池でドジョウの養殖に取り組む。23日に稚魚約8千匹を放した。養殖を始めたのは同市土生新の蓮野



池に稚魚を放す蓮野さん（奥左）、山岸さん（奥左から2人目）ら

有志の福光 地元産で 焼きかばドジョウ

勉さん(64)と山岸正さん(64)、地元の武田慎一県議(49)の3人。傾斜地にある耕作に不便だった蓮野さん所有の休耕田5・6㍍に池を造成した。

金沢市でドジョウ養殖の普及と事業化を進める松浦明久さんが稚魚を提供。松浦さんの指導で2年前から小矢部市荒間の耕作放棄地で養殖に取り組む本吉信夫さんもノウハウを教えるなど協力する。

休耕田に池造り

稚魚8000匹を放流

池の水に米ぬかや鶏ふん、貝化石などを入れ、餌となるプランクトンを発生させて育てる。放した稚魚は体長1〜1・5㍍で、順調に育てば1年で、かば焼きにできる約12㍍にまで成長するという。

南砺市内で売られているドジョウのかば焼きは現在、主に九州産のため、蓮野さんらは「地元産の養殖を軌道に乗せ、より安くおいしいドジョウを提供できればいい」と張り切っている。